

## 第 187 回東葛しぜん観察会

### フジバカマの里と国府台を歩く

田島正子（船橋市）

日 時：2023年9月23日（土・祝）9：30～12：00 雨のち曇り

場 所：市川市国府台（江戸川～フジバカマの里～里見公園）

参加者：16名（大人） 担当指導員：山口、小川、田島

昨年雨で中止になり再チャレンジの観察会。今年は何としても秋晴れの下実施したかったのですが、今回も雨。雨がしとしと降る中、傘をさしてのスタートとなってしまいました。3班に分かれ、始めに市川市の地形、江戸川の変遷、秋の七草について話しました。江戸川河川敷のこの場所は、牧野富太郎博士も何度か訪れたことがあるという貴重な植物の宝庫でした。今は河川改修により失われたものが多く、外来種が目立ちます。イタチハギのブツブツの実を虫メガネで観察し、「オニグルミがここに多い理由」、「アカメヤナギの新芽はなぜ赤い」、「トウネズミモチの実は何色になる」など、皆さんと一緒に考えながら、河川敷の樹木の観察を行いました。

また、五感を使うことを意識し、ヨモギの葉、クサギの若葉と古い葉の匂いを嗅ぎました。「ヨモギはいい匂い。ヨモギがこんなに大きくなるとは」と、驚かれていました。「クサギは名前ほど臭くないけど、若葉の方が匂いが強い」と気づかれた方も。カナムグラの蔓を触り、下向きの棘をひっかけ他の植物にからみつ়くことに、なるほどと納得。「リリリ…」「コロコロリー」と鳴くコオロギの声にも耳を澄ませました。

ピラカンサの枝に蓑虫（オオミノガ）が沢山ぶら下がっています。メスは翅がなく、一生蓑の中で暮らすことなど、蓑虫の一生について話しました。「それが蓑虫の生き方なのです」とえらそうに言ってしまいましたが、虫の多様性についてご理解いただけたかどうか・・・。

キンミズヒキの実を服にくっつけたり、アオギリのタネを観察し、折り紙で作った模型を飛ばしたり・・・、種の散布にも触れました。クズが一面に広がっているのを見て、「クズはやっかいだね」と参加者の方がおっしゃいます。クズの根は葛粉、薬になっていることを話し、クズの繊維で編んだもの（葛布）をお見せしました。昔の人々は草木と寄り添って生活してきました。そのことをしっかりと観察会で伝えていきたいと思いません。

フジバカマの里へ時間オーバーで到着。雨はすっかりあがりました。フジバカマの葉を乾燥させたものを嗅いでもらおうと「桜餅の香り」との声。白い小さな花はじっくり虫メガネで観察しました。土手を登り堤防に上がると景色が広がり、秋風が気持ちいい。この堤防は、国交省が市民の声を受け、フジバカマの自生地を避けて作ったものです。最後に台地の上の里見公園へ。江戸川を見下ろす見晴らしのいい所で歌川広重の浮世絵「名所江戸百景 鴻の台とね川風景」を見ながら、昔に思いをはせました。江戸川には帆掛け船が行きかい、広々とした平野の向こうに富士山が見えています。現在はスカイツリーとビルが林立する風景、さて未来はどんな景色になることでしょうか。



フジバカマを観る